

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 ()

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0051

宮城県気仙沼市常楽130

E-mail info@kesenuma-h.myswan.ne.jp

Website http://www.kesenuma-h.myswan.ne.jp/

幼児児童生徒数 男子 326 名 女子 353 名 合計 679 名
幼児・児童・生徒の年齢 16 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度＋活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「海を素材としたグローバルリテラシー育成～東日本大震災を乗り越える人材をめざして～」をテーマとし、持続可能な社会を創造する一員として必要な「思考力、コミュニケーション力、多様性・協働性・行動力」を育成するために①協働型学習プログラム・②東日本大震災復興プログラムを中心に ESD に取り組んでいる。この他、③国際理解・英語力向上に関する学習を実施した。

①協働型学習プログラム（課題解決型学習に関する取組）

1 年生「地域社会研究」では、「海と防災」「海と産業」「海と人間」「海の文化」「三陸の自然」の 5 つの領域について、地域課題の解決に向けた探究型学習にグループで取り組んだ。2 年生創造類型（34 名）「課題研究 I」では、世界に共通する課題や地域と世界を結びつけるテーマを設定して個人研究に取り組んだ。SDGs を意識できるよう「17 の目標」と関連のあるテーマごとにゼミを作り、担当する教員と大学の先生を配置した。創造類型 17 名は台湾研修にも参加し、台湾の大学生・高校生とともに研究活動に係る交流を行った。

②東日本大震災復興プログラム（震災・防災に関する学習）

震災・防災に関する学習では、発災時の自律的思考力・組織的対応力の醸成をねらいとして、6月には1年生を対象に本校防災主任から講演会とケーススタディー、6月・11月には消防・自衛隊と連携した生徒主体の防災訓練、3月の総合学習発表会では本校生活防災委員・市内在住外国人・気仙沼市総務部危機管理課職員をパネリストとして防災フォーラムを開催した。

③国際理解・言語力向上に関する学習

異文化理解と英語4技能の向上を目的とし、「C-u-b-e」と称して英語科が中心となり Career Course（主に英語検定合格を目指し、1次試験対策課外、2次試験対策面接の指導）、Cross-culture Course（昨年度からの異文化理解講座、英会話教室、Skype 交流に加えて海外の学校との壁新聞交換や日本語教授の活動）、Creation Course（英語コンテストの運営や海外研修への参加）3コースを展開した。



①地域社会研究 フィールドワーク



①課題研究Ⅰ フィールドワーク



②消防・自衛隊と連携した防災訓練



③フランスからの壁新聞

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2、 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(地方創生)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2、 1-3 に対応

平成30年度の気仙沼西高校との統合により開校する新気仙沼高校の統合校構想として、市内小中学校におけるESD活動を継続・発展できる教育課程を編成し、平成28年度入学生から取り組んでいる。先に述べたように持続可能な社会を創造する一員となるために必要な「思考力、コミュニケーション力、多様性・協働性・行動力」の育成をねらいとして学校設定科目「地域社会研究（1年生）」「課題研究Ⅰ（2年生創造類型）・Ⅱ（3年生創造類型）」を軸とした課題解決型学習に取り組んでいる。
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

多岐にわたる活動は校務分掌を中心に実施している。課題解決型学習・渉外・事業全体統括は研究企画部、防災教育は総務部、志教育（キャリア学習）は進路指導部、他校との交流活動は生徒安全部、授業改善・評価法の研究は教務部、英語を中心とした活動は英語科がそれぞれの活動について立案・実施している。さらに、「一人一事業主」を基本として各分掌内でも役割を決め、無理なく継続的に取り組めるよう組織体制を整えている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

生徒の変容を把握するため①グローバル化アンケート（年1回）、②「グローバルリテラシーに関する自己評価（年2回）を実施した。①では「グローバル社会で通用する人材になりたいか」という質問に対し、肯定的回答は90%であった。②はルーブリック表を用いて12の資質・能力の自己評価（5段階）を行った。段階3を学校が到達して欲しい段階とし、コミュニケーション力、行動力に関する段階3の割合が増えてきている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

学校を会場として年4回（10月：課題研究Ⅰの中間発表会、11月：地域社会研究の中間発表会、1月：1・2年生の学年発表会、3月：総合学習発表会）、外部に向けて発表会を開催した。発表会には大学関係者、市役所職員、地元企業、保護者、市議会議員、学校評議員、地元報道機関等が参加した。3月には発表者として地元中学校が参加、参観者に次年度入学生も加わった。研究活動で培った「持続可能な社会の創造に対する考え」を積極的に外部に発信することで、地域の支援体制が強化されている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

課題研究活動では、気仙沼市役所の関係部署が「地域理解講座」「フィールドワーク」「市内在住外国人の紹介」など様々な場面で協力をいただいた。研究の内容については、県内をはじめとする約40名の大学の先生方から生徒に助言をいただいた。また、地元NPO法人代表の2名の方にはフィールドワーク・アドバイザーとして本校生徒の諸活動のサポートをしていただいた。気仙沼市教育委員会と宮城教育大学が主催するESD研修会にも参加し、最新の情報を入手し活動に反映させた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

8月の岩手県洋野町、11月の気仙沼市で行われた海洋教育サミットでは多くの小中学校と交流した。また、高校との交流ではユネスコスクールでもありSGH指定校でもある仙台二華中高等学校のSGH公開研究会に課題研究成果の発表者として参加し、自分の研究成果を発信するとともに他校生の考え方や具体的な取組について見聞を広げることができた。11月には、大阪府立能勢高校の生徒3名が来校し、環境保全に関する研究や活動について情報交換を行った。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

気仙沼市のすべての小中学校がユネスコスクールであり、各校で特色を生かしたESDに取り組んでいる。(2)②でも述べたように、本校では、小中学校で培ってきた力を継承・発展し、地域が一丸となり「12年間でESDに取り組める」ように教育課程を編成している。持続可能な社会を創造する出発点を「地域課題に目を向けること」とし、SDGsを意識させた課題解決型の学習を軸として地域課題及びグローバル課題を解決していこうとする「意欲」と、課題を解決するために必要な「資質・能力」の育成に取り組んでいる。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度はユネスコスクールであった気仙沼西高校との統合初年度となる。(1)①の取組を中心として、気仙沼西高校で取り組んできたものを生かせるようにしていきたい。また、課題解決型学習においては3年生創造類型「課題研究Ⅱ」がスタートする年度でもあり、2年次「課題研究Ⅰ」で取り組んできた研究をより深化させるとともに英語での論文作成に取り組む予定である。英語による論文を作成することにより、国内が主であった交流や情報発信を海外へ広めることができると考える。

現在は、グローバルリテラシーの育成を中心とした学習活動が主な取組であるが、被災地への募金やボランティア活動への参加など、生徒の行動に良い変化が現れている。今後は、日常的に行える活動を生徒同士で話し合い、実行できるようにしていきたい。